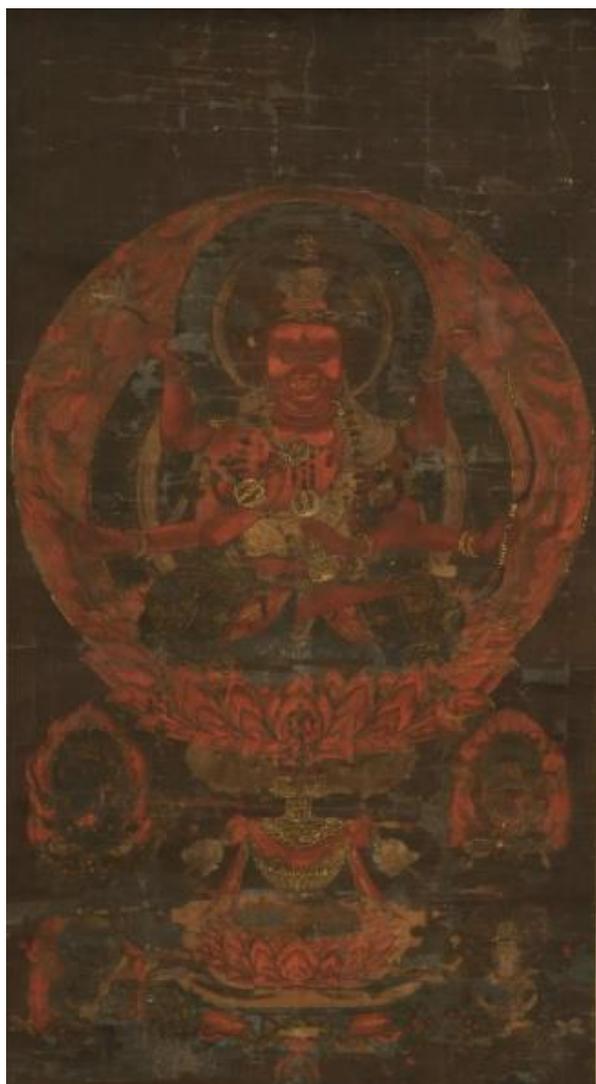


## 駒ヶ根市文化財

名称	光前寺の愛染明王図
種別	美術工芸品(絵画)
指定	市・有形文化財(平成28・1・20)
所在地	赤穂29
所有者	光前寺
説明	<p>絹本着色 13～14世紀</p> <p>各寸法:(A本)縦86.6cm、横46.7cm (B本)縦94.0cm、横52.4cm</p> <p>一つの箱に愛染明王図が二点収納されている。仮にA本、B本と称する。</p> <p>愛染明王とは愛欲を貪り食う心を清浄な心にいたらしめる仏である。一面六臂で獅子冠を被り蓮台上の宝瓶の上に結跏趺坐(けっかふざ)する。全身赤く火炎を伴う大円相の光背(こうはい)を負う。</p> <p>両手の形姿と持物は以下の通りである。</p> <p>(左手) 第一手 体の外側に伸ばして金剛弓を執る。      第二手 胸前で金剛鈴を執る。      第三手 上方に屈臂して五指を握り持物を執らない。</p> <p>(右手) 第一手 体の外側に伸ばして金剛箭を執る。      第二手 胸前で金剛杵を執る。      第三手 上方に屈臂して蓮茎を執る。</p> <p>【A本】:主尊の愛染明王は通例の図像に基づく姿をなすが、これに加えて四尊を配し、愛染曼荼羅の様相をなしている点に最大の特徴がある。管見(かんけん)の限りでは全く初見でほとんど類例を見ない図像であり、類例を探すことを含めて今後も引き続いて注視していきたい。</p> <p>中世の作で大過なく、鎌倉時代までさかのぼりうるかどうか問題であるが、作風とともに特異な図像的特徴も制作年代の推定に大きく関与すると思われる。後述するようにB本よりかはやや時代が降るものようであり、13～14世紀の間の制作と位置づけてよいだろう。</p> <p>【B本】:主尊の愛染明王は通例の図像に基づく姿をなす。装飾性豊かなA本よりもさらに基本に忠実な図像であり、また損傷も激しく、A本よりも製作年代は古そうである。</p>

駒ヶ根市文化財



A 本



B 本